

## 編集後記

遅くなりましたが、法学研究所所報第 53 号をお届けします。

法学研究所が発行している刊行物としては、年 1 回刊行の紀要（『刑事法の諸問題』『民事法の諸問題』『公法の諸問題』『政治学の諸問題』）と年 2 回刊行の所報とがあります。紀要がそれぞれの分野に特化した専門性の高い論考を掲載することに主眼を置くのに対して、所報は幅広く多様な分野の論考を掲載することに主眼を置くという、それぞれの雑誌の特色が鮮明になってきたように思います。今回もまた、多彩な論考を掲載することが出来ました。歴史的な視点からの論考もあり（高木侃先生の「井上ひさし『東慶寺花だより』を読む」はいよいよ今回で完結となりました）、現在の法の状況に関わる論考もあり（増田英敏先生の自著紹介は税制の根幹に関わる問題提起となっております）、外国のロースクール事情に関する興味深い報告もあります（ハワイ大学ロースクールに関する榎透先生のご報告は、日本と対比して、いろいろ考えさせられます）。そして、広渡清吾先生の法学部教授退任記念講演では、法学・政治学の極めて多くの分野の本質的な問題が縦横無尽に取り扱われており、まさに圧巻と申せましょう。

最後に、今年 2 月の合宿研究会に併せて実施した府中刑務所参観に因んで、【小特集 刑務所】を掲載しました。参観の実施に当たっては、刑務所との交渉など、事務局員の渡邊一弘先生に大変なご尽力を頂きました。また、岩井宜子先生からも玉稿を頂戴することが出来ました。お二人に心より感謝申し上げます。

私事にわたりますが、私の実家には、祖父が熊本刑務所に在職中に、自らが教誨した受刑者から出所記念に贈られたという豪華な雜壇と雛人形があったのを、懐かしく思い出しました。

前川 亨（本研究所事務局長）